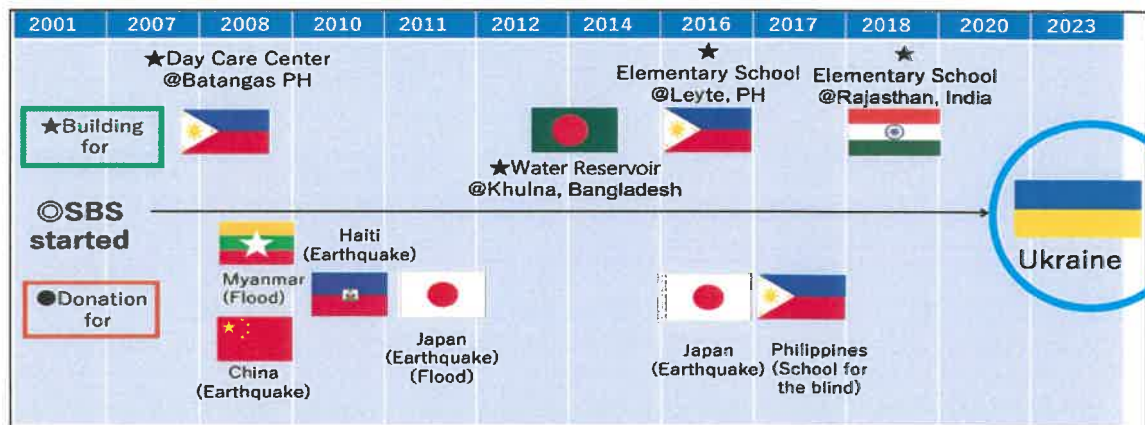


ウクライナ B 校との人道支援交流(2023年7月～)

私が人道支援活動の特別顧問を務める大阪の M 高校には、戦争紛争・自然災害等様々な理由により、十分な学習環境を維持できなくなった国内外の学校へ支援を行う人道支援活動があります。この活動を通じて M 高校の生徒たちは、平和であること・助け合うこと・学習することの重要性を(嬉しさと難しさも)グローバルな視点で実践的に学びます。

2023 年 7 月より、支援対象校調査中に届いた支援要請をきっかけに、ウクライナ・キーウ郊外の B 校との間で、人道支援交流活動を進めることになりました。

<M 高校人道支援活動> *今後パレスチナやシリア等への展開も検討



この B 校は、2022 年 4 月にロシア軍による侵略を受け、校舎・集会室・食堂が破壊されました。ウクライナ政府による復興予算は、軍や医療関係の分野で優先執行されるため、学校向けの復興予算額は限られています。この学校では校舎の修復は進んでいるものの、付帯建物である集会室・食堂の復旧工事は全く進んでいませんでした。集会室・食堂は、校舎同様に生徒達の交流や各種学習活動を促進する非常に重要な場所であるため、集会室・食堂の復旧工事を対象にした支援活動を進めることになりました。この中で、M 高校の生徒達が真摯に広報活動や募金活動に取り組んだ結果、M 高校・生徒・家族他から多数の支援者を得ることができ、B 校の復興活動に大きく貢献することになりました(工事進行中)。両校は、国際交流パートナーシップ校となり、復興プロジェクトが進む中、生徒主体の定期交流を続けています。

この活動には、両校関係者だけではなく、B 校が所在する自治体や在日ウクライナ大使館にも参画して頂き、日本の経済産業省からもリスク・アドバイスを頂くなど、両校の生徒達はグローバル環境の中、自分たちが進める活動の重要性や規模の大きさを実感しています。また、M 高校の生徒達は、実際に会ったことがない(後の WEB 会議まで)海外の同世代の人達への支援活動を通じて、世界情勢や国境を越えた思いやり等学ぶことが多いことに気づきました。

このように、より多くの若い世代が、広い視野で世界を眺め、暖かい心を持ち、お互い助け合えるようになれば、自ずと平和な世界ができ上がると信じています。ウクライナに平和が戻った時には、M 高校の関係者達と B 校を訪問する夢を育んでいます。 2024 年 1 月安野信之

ウクライナB校 支援プロジェクトまとめ

2023年7月作成開始
2025年1月更新

年 月	人道支援活動： ウクライナB校 支援プロジェクト 【目的】 B校の学習環境の再構築を支援する。 【注意点】 ・現地が求めていることは何か？ ・現地の時間的制約を忘れないこと (web会議前の事前学習・事前準備を忘れない) ・空襲警報発令時は、WEB会議を即中止 (ウクライナ政府サイト https://alerts.in.ua/en)		日本側			ウクライナ側														
			M 高校	日本政府			現地 コンタクト	B 中 高 校	B 市 政 府	そ の 他 支 援 団 体										
				経 産 省	外 務 省	文 部 省														
2022	2	ロシアによるウクライナ侵攻																		
	4	キーウ近郊のB校 ロシアによる攻撃を受け占領下に																		0
2023	2	国連「ロシアによるウクライナ侵攻を非難する決議案」																		
	7	★ウクライナ現地からの支援要請 キーウ近郊のB校 支援要請内容検討・精査 (WEB会議) 再建設計画 ★B校への支援プロジェクト開始																		0
	9	★正式プロジェクト会議開催 (目的・目標・スケジュール等) ウクライナについての学習開始 (今回の経緯、歴史的背景等) ★大阪に避難するウクライナ人学生との学習交流会開催 (生の声を聴く：現地状況、日本での生活、日本の難民支援政策等)																		0
	10	★B校被災状況確認と学校修復案作成 (復興計画、必要資材特定、必要人員算出、予算管理、リスク管理)																		0
	11	★支援金募金活動開始 (学校、生徒、家族、文化祭、街頭募金) プロジェクト定例会(WEB) 進捗と振り返り																		0
	12	クリスマス交流会 (WEB)																	0	
2024	1	プロジェクト定例会(WEB) 進捗と振り返り																	0	
	2	経産省通商政策局欧州課への活動報告 (現地事情に関するアドバイスを頂く) 日本政府主催 「日本・ウクライナ経済復興推進会議」参加 *欄外追記情報有り 外務省・文部科学省への活動報告 ★B校への支援金送金																	0	
	3	復旧工事開始																	0	
	7	プロジェクト定例会(WEB) 進捗と振り返り																	0	
	9	B校開催の州内教育活動報告会に参加 (WEB) (B校支援プロジェクト活動について説明)																	0	
	10	プロジェクト定例会(WEB) 進捗と振り返り																	0	
2025	1	プロジェクト定例会(WEB) 進捗と振り返り																	0	
	5	工事完了予定																	0	
	6	★プロジェクト全体振り返り (目標と実績、学んだこと等)																	0	

日本政府主催「日本・ウクライナ経済復興推進会議」について (2024年2月19日)

日本政府(当時)は、ウクライナの復興需要は莫大で(世界銀行試算で約73兆円)、より多くの日本企業が復興事業(事業進出)へ参加することを強く望んだ。しかし、ウクライナでの戦禍の収束が見えず、ウクライナへの進出を計画する日本企業は、現地での事業開始に向けた事業実現可能性評価(現地実態把握、リスク査定、復興規模の調査や事業収益試算)を開始できず進出は停滞。迅速に事業を進出させる必要性(機会)と難易度の高いリスク管理の必要性という相反する二つの重要課題に直面している。